

議事概要

会議等の名称	令和５年度 第２回いきいき学びの町AMI推進会議
開催の日時	令和６年３月２１日（木） １３：３０～１５：００
開催場所	阿見町立中央公民館 ３階 集会室
議 題	第２次阿見町生涯学習推進計画の進行管理について
公開・非公開の別	公開
次 第	１．開会 ２．審議事項 第２次阿見町生涯学習推進計画の進行管理について ３．閉会
議事内容（要旨）	事務局 定刻となりましたので、令和５年度第２回いきいき学びの町AMI推進会議を開催いたします。本日はご多用のところご出席いただき誠にありがとうございます。初めに傍聴人の報告です。会議の審議等に関する規定により傍聴者を募集しましたところ申し込みがありませんでしたのでご報告いたします。 それでは、議事に入らせていただきます。会議の進行につきましては、会議規則第６条の規定に従いまして、野呂会長にお願いいたします。 議 長 それでは、議事に入ります。今年度「第２次阿見町生涯学習推進計画」が施行されたことにより、事務局が進行管理表を新しく作成していただきましたので、その表について委員の皆さんに協議していただきます。重点プロジェクトと具体的施策の２つに分けて進めていきたいと思ひます。まず、重点プロジェクトについて事務局より説明をお願いします。 事務局 昨年度のいきいき学びの町AMI推進会議において、委員の皆さんと一緒に「第２次阿見町生涯学習推進計画」について検討してまいりました。そして今年度、生涯学習推進計画が新たに施行されました。これまでの会議では、記入されている数値や実績等についてご審議をいただきましたが、今回は進行管理表そのものについてご意見をいただければと思ひます。今後進行管理を進めていく上で、この表で大丈夫であるかどうかについてです。今回の会議で了承をいただければ、この表を使用し事務局側で数値や実績を記入していき、次回の会議で進行管理についてご審議をいただきますのでよろしくお願いいたします。 それではまず、重点プロジェクトから説明をいたします。今回作成した表と「第２次阿見町生涯学習推進計画」の冊子をご覧ください。 冊子の60ページを開いていただきますと、令和10年度の目標値が記載されております。この令和10年度の最終目標に向けて、毎年目標値を設定し、実績を入れて、その

	年の達成率及び10年度に対する進捗率を計算していこうと考えております。毎年、達成率をみながら評価をしていただくのですが、これまで活用していた進行管理表と大きな変更はありません。しかし、1つ変更点がありまして、右側に新たにコメント欄を作りました。実績の欄に2回や3回などの数値を書くだけではなく、開催をする上でどのような工夫をしたのか、どのようなことに重きを置いたのか等についても記入をしていきます。文章標記があることで、皆様にとってはより評価しやすくなるのではないかと思います。ただ、すべての事業で文章標記をするのではなく、工夫点があった時などに記載していきたいと思います。また、事業の内容がよくわからないものについても、説明を入れていこうと考えています。他にも、今後インフルエンザ等で実績の数値が急激に減少すること考えられますが、その際にも「インフルエンザの流行のため、入場者が減少」などのコメントがあれば、さらに評価しやすくなると思います。 また、この評価につきましては、毎年どのくらい目標を達成できたのかを達成率で見いただきます。達成率が90%以上であればA評価、70～89%であればB評価、69%以下であればC評価として事務局で記載いたします。その評価を見て、委員の皆さんには、重点プロジェクトごとに総合評価を決めていただきたいと思います。 重点プロジェクトに関しては、これまでの評価から大幅な変更点はありませんが、コメント欄が増えたことと、重点プロジェクトの総合評価を委員の皆様に行っていただくことの2点が新しく変わったところです。また、重点プロジェクトはⅠ～Ⅵまでありまして、今回記載されている事業は、「第2次阿見町生涯学習推進計画」に記載してあるものすべてを載せてあります。重点プロジェクトについては以上です。よろしくお願いいたします。
議 長	事務局から重点プロジェクトについての説明がありましたが、委員の皆様からご意見があればいただきたいと思います。
委 員	冊子の61ページに載っている「あみ子ども大学」はどのような内容でしょうか。
事務局	小学4～6年生を対象に、学校の授業では習わないような高度な内容の講座を毎年実施しています。今年は、和食文化についての講座を予定しております。昨年度は理学療法士についての内容で、障害者スポーツやテーピングの巻き方、応急処置などについて学びました。
委 員	その事業は、委員の方々はどこまで知っているのですか。全員とは言いませんが、委員が出席し、どのような事業であるか理解しなければ評価する意味がないと思います。委員が内容を理解できるようなシステムがあれば良いと思います。事業の内容が分からないのに評価をしていくのはおかしいと思います。
委 員	話を聞いてみて、私も子ども大学に興味を持ちました。今度一緒に行きましょう。本日は内容の評価ではなく、表の作りがこちらで良いのかということですが、表についてはよくできていると思います。

委 員	表については、前のものより見やすくよくできていると思います。また、おっしゃるとおり、我々も実際にどのようなことをやっているのか見に行かないと分からないことがあると思います。ですので、私もできるだけ町の行事には参加するようにしています。
委 員	事業がいつ、どこでやっているかが分からないので、委員に知らせてほしいと思います。
事務局	生涯学習課では、子供から高齢者まで幅広く事業を展開しています。事業によって対象者がまちまちですので、どこまで委員の皆様に連絡をすれば良いのかが難しいというのがあります。また、町では町民に対してメールやラインで情報提供をしています。委員の皆様のご了承を得られれば、すべてのお知らせをあみメール等を使用してお送りすることは可能ですが、個別にメール等を送ることは難しいと思います。
議長	重点プロジェクトについて他にご意見はありますか。 ないようですので、次の説明をお願いします。
事務局	続いて具体的施策になります。冊子の80ページをご覧ください。教育関連の事業や関連する事業など、様々な事業が掲載されています。教育関連の事業とは、生涯学習課、図書館、予科練平和記念館、学校教育課、中央公民館など、教育委員会で担当しているものです。関連する事業とは、教育委員会以外の課で担当しているもので、教育や生涯学習に関係するものが掲載されています。今回は、教育委員会が実施している事業と教育委員会以外が実施している事業について、表の形式が異なりますのでそれぞれご説明いたします。 評価の仕方について、冊子には令和10年度の目標値が記載されておりませんが、重点プロジェクトと同様に令和10年度の最終的な目標値は設定していきたいと考えています。そして、目標値に向けて実績を積んでいければと思います。また、配布資料の主要な事業という部分は以前まで使用していたものですが、年度の目標値や実績、達成率、進捗率が入っており、重点プロジェクトと同じ評価方法になっています。つまり、重点プロジェクトとの差別化が図れていないという反省がありまして、今回の具体的施策では、令和10年度の目標値に向けて毎年実績を積み上げていくという記入方法にしようと考えております。また、コメント欄については、重点目標と同様に載せさせていただきました。毎年実績を積み重ねていきますので、年度ごとの進捗が見やすくなると思います。そして、令和10年度の目標値に対する進捗率（パーセンテージ）に応じて色分けをし、評価をしていきたいと考えています。継続的に事業を実施していくことで、だんだんと色が変化していくように作成しました。 また、教育委員会以外の事業に関しても進行管理をしていこうということになりました。ただ、こちらについては実績と今後の展望のみを掲載していく予定です。毎年の実績を積み重ねていくことでこちらも評価をしていきたいと考えております。教育委員会の事業だけで165項目、教育委員会以外の事業は76項目、合計241項目になり、かなりのボリュームがありますので、具体的施策については特筆すべきものをピック

	アップして進行管理していければと考えております。重点プロジェクトと具体的施策との差別化ということで進行管理の形式を少し変更しましたので、この点も含めてご検討いただければと思います。よろしくお願いいたします。
事務局	補足します。今、事務局より具体的施策の説明をいたしました。令和6年度から令和10年度まで毎年実績値を入れていき、過年度の実績と比較していけるような形にしています。最終的には令和10年度の目標値が前期の推進計画のひとつの区切りになるかと思っています。そこに向けて年度ごとにどれくらい進捗しているのかを、色分けして見ていただき、評価していく流れです。また、以前までのいきいき学びの町推進会議では重点目標を評価してきたところですが、今回からは教育委員会関連で実施している事業についてもすべて資料に入れようという考え方で作成しています。次年度以降の進行管理では、主に数字の変化が目立つ部分等についてご審議いただくようになるかと思っています。関連する事業については、評価をしていただくというよりは、実績や今後の展望などを確認していただくといった形になっています。そのような資料の作り方などについてご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。
議長	事務局の方から具体的施策の進行管理について説明がありましたが、委員の皆様のご意見がありましたらお願いします。
委員	項目が多く、評価するのがとても大変だと思います。事業を実施しながら評価もしていく事務局の負担が大きいのではないのでしょうか。本当にこの方針で進めて大丈夫なのではないのでしょうか。負担の大きさによっては毎年でなくても隔年評価にするとか、項目ごとに評価年を決めておくといったことでも良いのではないのでしょうか。評価が優先されて実施に支障が出るのが一番いけないことだと思います。
事務局	正直、大変ではあります。260項目以上あるので、毎年それを評価していくのは難しいところもあると思います。また、2年ごと、3年ごとというのも良いかと思いますが、まとめる際にかえって難しくなってしまうのかなという点もあるので、何が最適かという部分は判断が難しいところです。
委員	中間で一度評価をして、令和10年度に最終的な評価をするといった程度でも良いように思いますが、いかがですか。
委員	報告も大変でしょうし、実際に進捗状況が達成されているのかどうか疑問を感じます。進捗内容の精査はどのようにしていくのでしょうか。隔年での評価にするにしても、もう少し考えたうえで対応するのが良いと思います。
事務局	令和10年度の目標値があって、それに対して毎年どうであったかということになります。基本的には実施回数や参加人数などの数字で目標が設定されますので、目標の数字があって、年度の実績となる数字があれば進捗率は計算ができます。そのような形で進めるというイメージを持っています。たしかに項目は多いですが、絞るにして

	も基準が難しいこともありますので、ふさわしい表の作成方法についてご意見をいただければと思います。
委 員	平成30年度から令和4年度までの5年間も、実績の数字は事業の主体が把握していて、それをこちらに報告していただいていたということですか。
事務局	教育委員会全体の事業ですので、それぞれ担当部署があります。各担当者に依頼をして、提出されたものを事務局で取りまとめるということになります。毎回その作業を繰り返しています。作業として大変ではあると思いますが、担当としてはどうですか。
事務局	昨年と比べて、負担は軽くなるようにしています。昨年の場合、毎年目標を作成する必要があった点が大変でした。資料を集めるのも、各担当者に依頼して書いてもらって、これを集計するということになります。また、具体的施策について皆さんに評価をしていただくということではありません。事務局側も、急激に数字が変動している項目のみ皆さんに説明するのであれば、2年や3年に一度にしなくても大丈夫ではないかと思っています。 全部を評価するとなると、皆さんにも負担になってしまうので、基本的には重点プロジェクトの方を評価していただいて、それに付け加える形の資料として具体的施策の部分を見ていただければと考えています。
委 員	進捗率についてですが、90%が左側に表記されていますが、数字の低い方を左側にした方が見やすいと思います。加えて、色が赤だと注意色に見えるので、60%未満の場合に用いた方が視覚的にわかりやすいのではないかと思います。例えば、60～90%を白色、90%以上の場合には緑色にするといったことも考えてもらえると良いのではないかと思います。
議 長	達成率を明確にするための色分けについて、他にご意見がありましたらお願いします。
事務局	達成率に対する色は何色が良いと思いますか。
委 員	年々充実して100%に近づいていくわけですね。パッと見たときにどんどん良い色になってきたなと見て取れる、成長を感じられるような色だと良いと思います。
委 員	そうするとやはり赤でしょう。
委 員	赤・黄色・青でしょうか。
委 員	色が多すぎるのもよくないと思うので、60～90%は白色（色なし）で良いのかなとも思います。

委 員	赤の方が暖かい色で目立ちますから、こうしてあるのだと思います。
委 員	日常生活でも赤は目に入りやすいですね。
委 員	あるいは、スタートの方は白っぽくしてだんだん濃くしていくという手もあるかもしれません。まったく違う色を使用するのではなく。
委 員	おしゃったように、だんだん色をつけて見やすく、理解できるようにしていくと良いと思います。最終的には、担当者にお任せします。
事務局	ご意見ありがとうございます。検討させていただきます。
議 長	他にございませんでしょうか。
事務局	色々のご意見をいただいたことを踏まえて資料を作成してみたいと思います。年度の最終的な実績報告が出るのは年度が明けてからになります。それに関する会議を行う時期や回数など課題もあるかと思うので、まずは数字を入れてみて、次回の会議で資料のボリュームについてのご意見等をいただきたいと思います。よろしくお願いします。
議 長	これから実績が出るわけですが、令和6年度からの会議の回数について委員の皆さんのご意見を聞きたいと思います。
委 員	コメントを書くにあたり、皆さんとそれぞれの事業に出席してみて、客観的に報告するのも一つの方法だと思います。会議は4回行うのが良いのではないのでしょうか。
委 員	4回は少し大変かもしれません。
事務局	コメントについてですが、こちらは委員さんに書いていただくのではなくて事業の主体者が記入します。
委 員	会議に出席する委員が意見を言えるような形にしていったら良いのではないかと思います。1度でも良いので現場に行ってみると良いかと思います。
委 員	子ども大学に委員がたくさんいたら子どもがびっくりしそうです。
委 員	せっかく素晴らしい冊子を作成しているわけなので、委員も的確な意見が言えるように現場に携わった方が良いと思います。
事務局	委員さん方が事業に参加していただけるのであればありがたいです。皆さん、団体の代表として会議に出席してくださっていますので、それぞれ自分たちの団体に関係

	する事業というのがあると思います。まずはそういうところにご出席いただけると良いかと思いますし、すでに積極的に参加していただいている方は本当にありがたい限りです。 また、最終的な実績の報告がまとまるのが6月頃になります。あくまでも事務局案ですが、会議の回数については、毎年6～7月に1回のサイクルで開催していけば、目標と実績が両方入った状態で会議ができるのではないかという案がありました。ただ、委員さんが多くの項目を見る必要もありますので、委員さんにとっては負担でもありますし、会議の回数がそれで適当なのかどうかという点は次回の会議でご意見いただければと思います。
事務局	確認したいことがあります。イベントの開催が委員の方々へなかなか伝わらないという話をいただきましたが、例えばどういう形で伝えれば皆様に一番うまく伝わるのでしょうか。例えばイベントがある際にメール等で連絡をした方が良いのか、次回の会議の際に開催時期を載せた一覧表のようなものを配布した方が良いのか、伝える方法はいかがでしょうか。
委 員	後者の方がありがたいです。一覧を見て参加できそうなものに行ってみるのが良いと思います。
事務局	年間計画のようなものを事務局で作成し、そちらを委員さん方にみていただいて、興味があるものに参加してもらうような形でよろしいでしょうか。興味があり具体的なことが聞きたい場合や参加したい場合は、事務局にご連絡いただければと思います。
委 員	そのような形で良いと思います。よろしくお願いします。
委 員	町の広報誌に掲載されている各公民館などのイベントを見て参加してみるのも良いのではないのでしょうか。また、イベントについて日にちまで決まっていなくても、大まかな予定表があれば、事務局に聞いて参加できるようになると思います。 進行管理の表については大変良いと思います。とても見やすいです。
議 長	それでは、その他のご意見がないようですので事務局の方へお返ししたいと思います。
事務局	色々なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。今後、委員の皆様にも積極的に事業にご参加いただけるというような前向きなお話もいただき、ありがとうございました。本日いただいたご意見を踏まえまして、資料を作成していきたいと思っています。6月末～7月くらいの間で令和6年度の第1回目の会議が開催できるように準備を進めていきたいと考えています。これからどのように計画的に審議をしていくかということ、次回の会議でご意見いただければと思います。また、資料ができあがりましたら事前にお送りしますのでよろしくお願いします。

	以上をもちまして令和５年度第２回のいきいき学びの町推進会議を閉会いたします。ありがとうございました。
--	--